

介護と人権

～老老介護4000日の軌跡～



超高齢社会に突入している今、多くの家庭で、配偶者や親などの介護が必要となる時代がやってきています。また、介護をうける人が増えるとともに、身体的・心理的虐待や経済的虐待などの人権に関わる問題が発生しています。

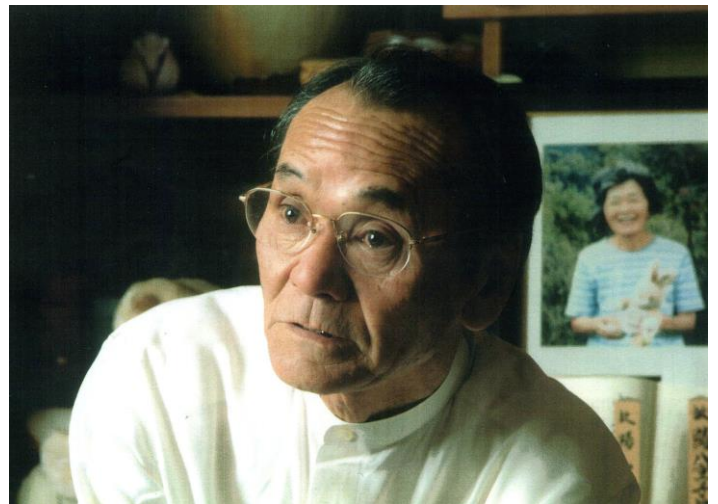
そうした中で、アルツハイマー病などを原因とした「認知症」の人も増えており、介護をする人の介護負担やストレスから、虐待につながるケースも少なくありません。

今回の講演をとおして、家族や介護、人権について考えてみませんか。

講師

みなみ のぶたか
陽 信孝 さん

- 1939年山口県萩市生まれ。国学院大学文学部卒業。
- 30年以上にわたり教職に携わり、小・中学校長、萩市教育長などを歴任。
- 1991年のがんの宣告を受け、手術。その頃から、妻・八重子さんが「アルツハイマー病」を発症。その後、3度のがんの再発を乗り越え、退院。
- 妻・八重子さんが、死去するまでの12年間、約4000日にわたって介護を続けた。



65歳で生涯を閉じた妻・八重子さんとの思い出の介護の日々を綴った著書「八重子のハミング」（小学館）が2017年に映画化され、全国の映画館で公開されました。

日時

2月8日 木

会場

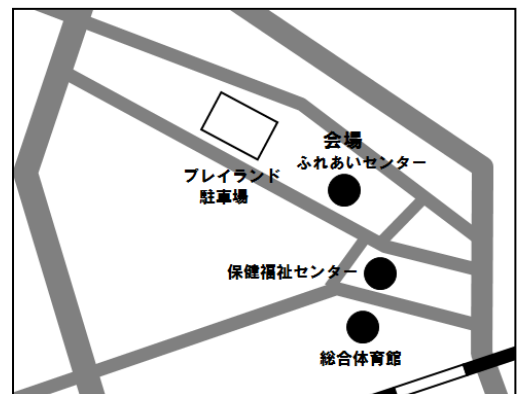
18:30～19:50

庄原市ふれあいセンター

コパリホール（庄原市西本町四丁目5-26）

問い合わせ

庄原市 生活福祉部 市民生活課 電話 (0824) 73-1154



※プレイランド駐車場もご利用ください。